

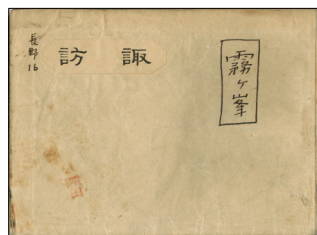
久弥と五万分の一地形図と赤鉛筆と

その25

五万分の一地形図の折り畳んだ表に霧ヶ峯と大きく書かれたものがある。地勢図「長野」の十六番「諏訪」である。これには、多くの書き込みがあるようなので

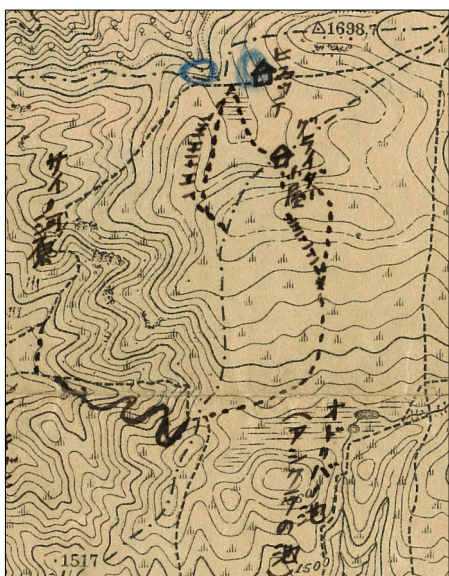
出してみた。残念ながら赤鉛筆の線はなかった。蝶々見山、物見山、大笹峯、物見岩、御射山、株ッ丁、オドリバノ池(アシクラの池)、サイノ河原、と多くの地名が書き込まれている。ヒュッテ霧ヶ峯とグラフィター小屋のマークが書き込まれており、ヒュッテの周辺には歩いたルートがいくつも引かれている。この中でルートの横に奇妙な印のある所が二か所ある。カタカナの「エ」の連続かと思っただがそうでもない。と言うのは、深田久弥の「霧ヶ峯の一夏」に、ヤギの啼き声は「エエエエ」と聞こえると書いてあったからである。ほかに物見山、御射山、八島ヶ池周辺に歩いたルートが書き込んである。

深田久弥は昭和九年(1934)二月に蓼科の親湯から霧ヶ峯に行き諏訪に下っている。しかし、地図への書き込みはこの時のものではないようである。次の年、昭和十年(1935)には、七月下旬から九月初旬までの一夏をヒュッテ霧ヶ峯で過ごししている。この時は八穂を伴っ



ているし、小林秀雄も行動を共にしている。着いた翌日には、ヒュッテの主の長尾宏也さんを連れ出し八島ヶ池から鷲ヶ岳に登っていた。その後も勉強につかされると近所を歩き回っていた。また、周りに見える山々の展望も楽しんだ。八ヶ岳、木曾駒、御嶽、乗鞍、北アルプス、富士山。この展望はカシミール3Dでも作図してみたが豪華な眺めである。この地図の書き込みはこの時期歩き回った時のものであるろう。

また、この間には、八月六日から南アルプス光岳へ行っているし、八月十七日から五日間は「山の會」が開かれている。この会は梓書房の岡茂雄が企画し、久弥も計画、準備に携わっている。柳田國男、武田久吉らを講師に招き著名な方々が二十人ほど集まった。この一夏の様子は「霧ヶ峯の一夏」(『山岳展望』)に詳しい。



ヒュッテ霧ヶ峯周辺地図

聞こう会

会場：深田久弥山の文化館 聴山房
時間：午後一時三十分～三時

◆四月十四日(日)

演題：白山の登山ルートの特徴・魅力と登山道等の施設の管理について
講師：村中克弘氏(白山自然保護センター 前次長)

◆五月十九日(日)

演題：ふるさとの自然環境の変化
―植物について―

講師：川崎与四郎氏(石川県自然解説員 研究会)

◆六月二十三日(日)

演題：登山ガイド・自然ガイドのお仕事
講師：佐野弘明氏(石川県自然解説員研究会・信州まつもと山岳ガイド協会やまたみ)

読書会

会場：深田久弥山の文化館

時間：午後一時三十分～三時

*四月二十六日(金)

『日本百名山』より「大台ヶ原山」

*五月二十四日(金)

『日本百名山』より「燧岳」

*六月二十八日(金)

『日本百名山』より「巻機山」

ホームページもよろしく

<https://yamanobunkakan.com>

 深田久弥山の文化館



山文HP